

雑誌『丁酉倫理会倫理講演集』総目次（Ⅱ）

大木 康充

第百五十巻輯（1915年3月10日）

講演

中立国々民に訴ふる交戦国々民の道徳的主張（下の一）

……………マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

英独思想の特徴を論ず（完）……………文学博士 藤井健治郎

論理的遊戯……………文学博士 桑木厳翼

泰西思潮

近世独逸の文学と政治/独逸の学術と独逸の文化（ワワナア・フワイト）/米国の  
寄付金/米国の責任

雑録

本会記事/徳操の権威の動揺せんとする憂（法貴慶次郎）/悪魔と天使（蜻蛉生）

/憲政と国民性（三輪田元道）/読者の声

第百五十巻輯（1915年4月10日）

講演

論理的遊戯（承前）……………文学博士 桑木厳翼

情死の研究及び其倫理的観察（下）……………布川静淵

国運と教育……………文学士 八田三喜

立憲国民の一訓練法として、ギル氏の『新市民』を読む……………中島徳蔵

泰西思潮

大生物学者ワイズマンの死/死後の生活

雑録

記事/タゴレ（担室老人）/選挙取締と道徳的良心（自如観人）/海軍飛行最初の犠牲を悼み研究上進歩を望む（隈本有尚）

第百五十参輯（1915年5月10日）

講演

- 北米合衆国の道德教授……………文学博士 吉田熊次  
価値を論ず……………文学士 吉田静致  
離念境界唯証相応……………文学士 紀平正美  
福沢先生の根本的精神『独立自尊』の心を思ふ  
……………ドクトル、フィロソフイー 鹿子木昌信

泰西思潮

近世的理想郷/戦争の倫理/女権拡張論者の平和運動/世界的平和の提議

雑録

米国主義（友枝高彦）/タゴールの苦観（市沢弥一）/読者の声

第百五十四輯（1915年6月10日）

講演

- 戦争の倫理……………文学博士 中島力造  
価値を論ず（続）……………文学士 吉田静致  
中立国々民に訴ふる交戦国々民の道德的主張（下の二）  
……………マスタア・ヲブ・アアツ 千葉鉞藏  
新貞操論を評す……………中島徳蔵

泰西思潮

独逸の文化（パーシー・ガードナー）/クリスチャン・サイエンス療法（レヤード・キングート・スネル）/ベルグソンの戦争観

雑録

道と実生活（三輪田元道）/斯の人心の荒廃を奈何せん（蜻洲生）/試験制度の道德的影響（速水滉）/読者の声/家族会記事

第百五十五輯 (1915年7月10日)

講演

- 徳育の革新に就て……………高島平三郎  
運命対自由意志……………隈本有尚  
国民的教化運動としての少年義勇団……………文学士 友枝高彦  
「トライチケ」と法家哲学……………小柳司気太

泰西思潮

無抵抗と現時の戦争/家庭の訓育的価値/今後の社会的宗教

雑録

優種政策の先に(八田三喜)/特別議会素人評(千朶花屋主人)/最近時事所感(静淵生)/緑陰卑言(瀧村生)/本会記事/読者の声

第百五十六輯 (1915年8月10日)

講演

- 個人主義に就て……………文学博士 井上哲次郎  
国民教化運動としての少年義勇団(完)……………文学士 友枝高彦  
徳育の革新に就て(続)……………高島平三郎

泰西思潮

愛国は道德か/戦場に於ける美事善行/比律賓の少年義勇団/女子と平和運動/戦後の英国陸軍

雑録

閻々録(担室老人)/我が加藤先生(中島徳藏)/読書日鈔(なにがし)

第百五十七輯 (1915年9月10日)

講演

- 所謂帰一協会の宣言に就て……………文学博士/法学博士 男爵 加藤弘之  
トライチケ政治哲学一斑……………法学博士 浮田和民  
聖教の要義……………小柳司気太

占星術に対する所感……………理学博士 一戸直蔵

泰西思潮

戦争母及び戦争子に対する世評/国際道徳の欠乏/天候に関する迷信

雑録

吾儕の国家主義（法貴慶次郎）/A B問答（空寛）/自殺に就いて（耳袋生）/忙  
余閑言（坦室老人）/学制案と高田文相（短評生）/読者の声

第百五十八輯（1915年10月10日）

講演

目下緊急の教育問題と社会問題……………文学博士 姉崎正治

平和主義か軍国主義か……………文学士 深作安文

「平等」の諸意義について……………文学博士 藤井健治郎

松崎博士の『最近欧洲列強の財政及金融』を評して学者の徳義に及ぶ…布川静淵

乃木伯爵家再興問題に就て……………文学士 友枝高彦

泰西思潮

独逸に対する亜米利加の精神的奴隷/戦争の論理（チャールス・ゴルハム）/能率  
の増加

雑録

本会記事/乃木將軍の遺志（蒼天生）/戒妄言者（嗜書人）/修学年限短縮論に就  
て（速水滉）/読者の声

第百五十九輯（1915年11月10日）

講演

貞潔の道徳的原理（上）……………宮田脩

ハーブードの学校生活……………文学博士 姉崎正治

松崎博士の著作的不道徳……………布川静淵

「アスツロロヂー」或問……………隈本有尚

泰西思潮

工業界の道徳的革命者テローア氏（フランク・コプレー）/米国学生の軍事練習

雑録

家族会及び研究会記事/巡講雑感（蜻洲生）/主義の争と感情の争（友枝高彦）/  
我国将来の問題（自如観人）/紀平正美君の「認識論」を読む（得能文）

第百六十輯（1915年12月10日）

講演

犯罪の要件に就て（一）……………法学博士 牧野英一  
「平等」の諸意義に就て（承十月号）……………文学博士 藤井健治郎  
貞潔の道徳的原理（下）……………宮田脩

泰西思潮

独逸の戦争に関する新刊書（エプステイン）

雑録

明治より大正へ（紀平正美）/邦人の二特質（自如観人）/『岡田式静坐三年』の  
自序（耳袋 岸本能武太）/哲学堂の建設

第百六十一輯（1916年1月10日）

講演

日本国民の理想……………井上哲次郎  
犠牲的精神……………村上専精  
道徳的批判の対象を論ず……………速水滉  
儒教は功利主義なり……………加藤弘之  
AB問答（続）……………桑木厳翼

雑録

忽然念起（紀平正美）/国民道徳の徹底（吉田熊次）/立憲的国民の養成とは何ぞ  
や（西晋一郎）/狗の児（野田義夫）/外国思想に対する今後の態度に就て（中島  
力造）/支那の帝政運動と其实質（法貴慶次郎）/静坐漫録（岸本能武太）/歳末

瑣談（瀧村生）/吉野紀行（藤井健治郎）/必要の生活—贅沢の生活—理想の生活  
（吉田静致）/昨年の我が倫理界の一瞥（深作安文）

泰西思潮

仏蘭西の文化とディレッタンティズム（チャールス・ショー）

第百六十二輯（1916年2月10日）

講演

犯罪の要件に就て（二、完）……………法学博士 牧野英一  
報本反始とは何ぞや……………文学士 西晋一郎  
時局雑感……………高島平三郎

泰西思潮

ブートルーの『独逸及び戦争』観/青年期の新道德訓

雑感

誤解につきて（太田秀穂）/書物合せ（近著四種）（桑木巖翼）/和田岬沖の悲劇  
論（中島生）/読者の声 鎮魂祭講話要点（河端金三郎）

第百六十三輯（1916年3月10日）

故文学博士法学博士加藤男爵肖像

我が加藤先生を追悼す

講演

西洋諸国の学風を論じ我国将来の学風に関して希望を述ぶ

……………文学博士 中島力造

典型的勸農家石川貞直翁……………文学士 深作安文

ヨーロッパの戦とニイチェ……………鹿子木員信

泰西思潮

戦争と無抵抗主義「ペリー教授に答ふ」（ベルランド・ラッセル）/ファーベル  
博士最後の試験

雑録

加藤博士の追悼——Ⅰ. 加藤博士の感化(桑木巖翼)——Ⅱ. 男爵加藤弘之先生の  
人格(吉田熊次)——Ⅲ. 加藤老博士を悼む(布川静淵)——Ⅳ. 故加藤老先生を  
追憶し奉つる(千葉鉦蔵)/京都哲学会

第百六十四輯(1916年4月10日)

講演

規範学としての倫理学に就て……………文学博士 桑木巖翼  
国家と人格……………文学士 大島正徳  
立憲思想の根本義及びその現代との関係……………文学博士 藤井健治郎

泰西思潮

英国の戦争と英国の教育 戦争と教育/品性の試験/学窓より観たる戦争/必然  
の革命/吾人は独逸教育の模倣を必要とするか(ミカエル・イー・サドラ)

雑録

春宵些言(山形生)/悪の価値(蜻洲生)/二つの哲学書(得能文)

第百六十五輯(1916年5月10日)

講演

立体としての人生……………文学博士 三宅雄二郎  
劇詩メロペエの倫理……………岡田哲蔵  
失敗の教訓……………文学士 太田秀穂  
一即多主義(倫理の基礎としての)……………文学士 吉田静致

泰西思潮

独逸の要求する平和条件(アアネスト・ヘツケル)/『量』なる偽神の崇拜遂に  
現代列強の国本を謬る/露西亜国民の神秘的宗教性/小説とは如何なものか。小  
説に関する談叢。好く語られた好き物語以上のものたることを示す

雑録

本会記事/惜春些語(東根生)/新聞雑誌雑感(素莽生)/魯庵君の「きのふけふ」

に就きて（掬香生）

第百六十六輯（1916年6月10日）

講演

儒教は果して功利主義なるか……………文学博士 井上哲次郎  
国家の生存と理想の問題……………文学士 友枝高彦  
一即多主義（倫理の基礎としての）……………文学士 吉田静致

泰西思潮

ラビンドラナート・タゴールの哲学的系統（W. S. Urquhart）

雑録

緑陰閑話（私娼の公娼化と公娼の私娼化・農村問題と其奇蹟的調査・煩瑣極まる  
電車乗客規定）（夏野茂）/生蕃の神及靈魂に対する觀念（吉田熊次）/国民の良  
心を感はす勿れ（自如觀人）/大内青巒師の信行綱領英独訳（中島生）/読者の声

第百六十七輯（1916年7月10日）

講演

本邦婦人の死亡率に就て……………二階堂保則  
戦争と道德……………文学士 深作安文  
ドクトル、ジョンソン……………文学士 下田次郎

泰西思潮

米国『倫理協会』の前途（D. S. Muzzey）/欧米に於ける『倫理協会』の起源及  
び事業（Herbert J. Seligmann）/英人の義戦運動

雑録

タイトル好きの国民（蜻蛉生）/国民道德研究書類（井上哲次郎）/調査会の流行  
と道德問題（山形生）/如何にして個人主義の余弊を匡救す可きか（桜洲生）/第  
二十九回家族会

第百六十八輯 (1916年8月10日)

講演

- 国民道徳研究の必要……………文学博士 井上哲次郎  
本邦婦人の死亡率に就て(前号の続き)……………二階堂保則  
戦争と道徳(承前)……………文学士 深作安文

泰西思潮

独逸流の愛国主義 (William Gascoyne-Cecil)

雑録

本邦の商業道徳に就て(静淵生)/故蟹江博士十三逸忌追憶会/家族に関する諸問題(友枝生)/「時」に関する習慣の一洗を望む(太田秀穂)/仏教研究の一新法

第百六十九輯 (1916年9月10日)

講演

- 科学と理想主義……………得能文  
歴史は繰返す……………隈本有尚  
本邦婦人の死亡率に就て(前号の続き)……………二階堂保則

泰西思潮

結婚と人口問題 (ベルトランド・ラッセル)

雑録

行賞の道徳的効果を危む(大島生)/一転語(空寛)/列国競争と国際道徳(桜洲生)/読者の声 「儒教は果して功利主義なるか」てふ論文を読みて井上博士に質す(祝久太郎)

第百七十輯 (1916年10月10日)

講演

- 戦後の道徳……………中島徳蔵  
観念論の意義……………文学士 紀平正美  
日本婦人の死亡率に就て(前号の続き)……………二階堂保則

泰西思潮

教育と人道主義（Alexander Darroch）/時局に関する最近の名著数種（G. Dawes Hicks）

雑録

礼儀観念の不徹底（東片生）/赤毛布式通信（静淵生）/英国気質（桜洲生）/白人も亦愛国心を有する歟（菊軒主人）/本会記事/米国に於ける一般的軍隊教育運動勃興の機運/大日本百科辞書の完成/村上博士在職二十五年祝賀会/心理叢書の発刊

第百七十一輯（1916年11月10日）

講演

現代の弱点……………文学士 三輪田元道  
人道の意義……………文学博士 吉田熊次  
道徳と日常生活……………文学士 太田秀穂  
バアトランド・ラツセル氏と思想言論の自由問題  
……………マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

泰西思潮

英国魂の渾成（Havelock Ellis）

雑録

政変に際して暴露せられたる天下の四大愚（独醒盧主人）/老人の退職と青年の勇往（美羅峯）/五十万以上資産家表の後に書す（捕風生）/本会記事并に会員消息/赤毛布式通信（静淵生）

第百七十二輯（1916年12月10日）

講演

世界の進運と国際的理想……………文学博士 姉崎正治  
拙著の批評に対して……………文学博士 朝永三十郎  
カントの倫理説批評……………中島徳蔵

宇宙の道徳的解釈……………文学博士 遠藤隆吉

泰西思潮

女の心 (ハエロツク・エリス) / 『世界の将来』 (H. G. Wells) / ロマン・ローランの戦争観

雑録

独創力に就きて (蜻洲生) / トラピスト修道院に生活して (霞浦生) / 印度旅行 (静淵生) / 本会記事

第七十三輯 (1917年1月10日)

講演

政変の倫理的批判……………文学博士 三宅雄二郎

静坐と修養……………マスター・ラブ・アーツ 岸本能武太

一夫一婦の道……………文学博士 井上哲次郎

独逸哲学と欧洲大戦乱 (一)……………文学博士 中島力造

雑録

道徳上より見たる大正五年の世界 (吉田熊次) / 国民道徳と宗教 (西晋一郎) / 仏

蘭西の自由と独逸の自由と日本の自由 (吉田静致) / 道徳的因果と自然的因果 (紀

平正美) / 欧洲戦と日本の今後 (隈本有尚) / 考へざる国民 (高島平三郎) / 世界

の将来 (三輪田元道) / 背景の軽視 (朝永三十郎) / 人格の価値 (藤井健治郎)

泰西思潮

力の道徳 (ハアトレイ・ビイ・アレクサンダア)

第七十四輯 (1917年2月10日)

講演

国家老朽策を改むべし……………文学士 大島正徳

女性と人道……………文学士 野田義夫

独逸哲学と欧洲大戦乱 (二)……………文学博士 中島力造

静坐と修養 (承前)……………マスター・ラブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

ホルト、フロイド派の倫理学とロイスの倫理学

雑録

本会記事/大錦論（吉田熊次）/『岡田式静坐の力』を読んで著作上の徳義に及ぶ  
（岸本能武太）/興国の氣象を教育界の何処に求めむ（唐変生）/議員選挙に就き  
て（蜻洲生）

第百七十五輯（1917年3月10日）

講演

欧洲戦争と独逸国民……………辻高衡  
民族国家・武断国家・文化国家……………文学博士 藤井健治郎  
異民族に対する本国人の態度……………文学士 太田秀穂  
六字の利劍……………文学士 常盤大定

泰西思潮

仏蘭西の国民主義（エイッチ・エイ・エル・フィッシャア）/米国に於けるタゴ  
オルの説教

雑録

本会記事/政争如是観（大島正徳）/戦争と基督教（無名氏）/読者の声

第百七十六輯（1917年4月10日）

講演

結婚の道徳の本質……………宮田脩  
媒介……………文学士 紀平正美  
独逸哲学と欧洲大戦乱（三）……………文学博士 中島力造  
民族国家・武断国家・文化国家（完結）……………文学博士 藤井健治郎

泰西思潮

過去二十五年間の倫理学（ジェイムス・エイッチ・タフツ）/ギツディングズ教  
授の活きた人間の為に選んだ簡単なる道徳律/実務家の大学教育に関する

シュワップ氏の意見

雑録

高校選抜試験法に就ての疑問 (大島生) / 説難 (空寛) / 露西亜の革命に就いて (蜻洲生) / 船中生活の雑観 (静淵生) / 読者の声

第百七十七輯 (1917年5月10日)

講演

支那主義の弊……………文学博士 上田万年  
独逸哲学と欧洲大戦乱 (四)……………文学博士 中島力造  
精神優越性……………文学士 大島正徳

泰西思潮

心的陶冶としての教育 (クスナア) / ロックフェラア新教育方案の『無恥なる物質主義』 / 『努力しつゝある神』の信仰に固有なる難点

雑録

本会記事/新聞雑誌と風教問題 (桜洲生) / 得る所幾千ぞ (M0生) / 浅人零語 (坦室老人) / 南阿一瞥の感想 (せいえん)

第百七十八輯 (1917年6月10日)

講演

欧洲大戦と国民の理想……………法学博士 浮田和民  
独逸哲学と欧洲大戦乱 (五)……………文学博士 中島力造  
戦後の新教育……………伯爵 林博太郎

泰西思潮

心霊研究の二十五年後 (ロッジ) / レイモンド、一名生と死 (死後記憶及び感情の存続する例証) (シヂキック)

雑録

本会記事/春期家族会記事/世界の大勢に対するの用意 (大島生) / 国辱問題 (三輪田元道) / 只一票 (空寛) / 政治的革新の道徳 (桜州生)

第百七十九輯（1917年7月10日）

講演

- 物質尊重の傾向……………文学博士 沢柳政太郎  
来る可き道德問題……………文学士 友枝高彦  
独逸哲学と欧洲大戦乱（六）……………文学博士 中島力造  
忠君愛国の自然的發達史……………記者

泰西思潮

平和主義対軍国主義の功罪（フォオアド）/バアトランド・ラッセルの戦争の代  
用物

雑録

鳥の雌雄（紀平正美）/青年を賊ふ勿れ（MO生）/現下の時勢と倫理運動（希声  
子）/緑陰独語（蜻洲生）/本会記事/大学公開講義

第百八十輯（1917年8月10日）

講演

- 国民道德の意義及其倫理学との関係……………文学博士 藤井健治郎  
思想の俗化……………文学士 三輪田元道  
独逸哲学と欧洲大戦乱（七）……………文学博士 中島力造  
戦後の新教育（続、完）……………文学士 伯爵 林博太郎

泰西思潮

大戦の結末に関する一予想（ロウ）/基督教の心理学的一新解釈

雑録

所謂国民道德に就て（大島生）/民主主義の襲来（捕風生）/街頭のさけび（桜州  
生）

第百八十一輯 (1917年9月10日)

講演

- 武士道より観たる欧洲大戦……………文学博士 井上哲次郎  
未成熟者に対する社会の態度に就きて……………文学士 野田義夫  
現大戦と英独教育の改革……………理学博士 八田三郎  
独逸哲学と欧洲大戦乱(八)……………文学博士 中島力造  
試験検定規程に関する疑義……………文学博士 藤井健治郎

泰西思潮

露西亜の本質的民主主義 (Victor S. Yarros)

雑録

成金か素町人根性か (SM生) / 偏れる道德教育 (速水凧) / 銷夏漫筆 (希声) / 迷信の流行 (坦室叟) / 意識的道德的努力 (大西友太) / 利己的なる学校熱 (M0生)

第百八十二輯 (1917年10月10日)

講演

- 英国の戦後経営問題……………文学士 八田三喜  
日独国民性の比較……………高島平三郎  
独逸哲学と欧洲大戦乱(九)……………文学博士 中島力造  
父権及び孝道の起源及び発達

泰西思潮

社会主義と国際主義 (ジョン・スパアゴウ)

雑録

本会記事/国民道德評論所感 (吉田熊次) / 教育会議に望む (自如観人) / 学校騒動 (蜻洲生) / 敦賀湾頭所感の一節 (露国行の途次) (せいえん) / 成金の善悪 (捕風生) / 読者の声

第百八十三輯（1917年11月10日）

講演

『児童道徳意識に関する研究』を読む（道徳教育の革新を促す）

……………文学士 速水滉

日独国民性の比較（完）……………高島平三郎

独逸哲学と欧洲大戦乱（十）……………文学博士 中島力造

泰西思潮

爾後戦争防止案（ブライス子爵等）

雑録

本会記事/目下の教育問題（蒼天）/山岳地に国公園の設置を望む（岡田哲蔵）/

見たり聞たり（一）（八田三喜）/サイベリア所見（静淵）

第百八十四輯（1917年12月10日）

講演

トライチカの政治説と其の歴史的背景（トライチカの政治説研究の緒論）

……………マスタア・ヨブ・アアツ 千葉鉞蔵

独逸哲学と欧洲大戦乱（十一）……………文学博士 中島力造

日本神道学の建設……………文学博士 遠藤隆吉

泰西思潮

ハルデイン子爵の『国民教育』振興論

雑録

本会記事/迷信国民（蜻洲生）/理化の奨励に泥む勿れ（宮田脩）/見たり聞たり

（二）（八田三喜）/露国の大動乱感想（捕風生）/国際的民主々義（桜洲生）/読

者の声 速水学士の『児童道徳意識に関する研究を読む』を讀みて（一小学校員）

右の批評に答ふ（速水滉）

第百八十五輯 (1918年1月10日)

- 神道私見……………法学士 柳田国男  
 道徳上より見たる欧洲大戦……………文学博士 井上哲次郎  
 最近露国形勢の推移と其将来……………布川孫市  
 所謂高等中学七箇年案に反対す……………文学士 大島正徳  
 意志よりの解放……………文学博士 桑木徹翼  
 国民道徳と自由思想……………文学博士 藤井健治郎

泰西思潮

平和強制同盟に関する近著数種 (マアガレット・ジュウルデン) / 婦人主義と家族 (エルシイ・クリウス・ペアソンズ)

雑録

本会記事 (本集大刷新の件) / 教育界の異彩 (野田義夫) / 教育上より見たる日米の関係 (高島平三郎) / 国民性と個性との比論 (吉田熊次) / 他我の直観と同円異中心主義 (吉田静致) / 形式よりも実質 (学制改革に就て) (速水滉) / 修身教授上心付きたる事ども (老吏生) / 見たり聞たり (三) (八田三喜) / 静坐と教育 (岸本能武太) / 在満偶感 (法貴慶次郎) / 如何にして兵役を尊重せしむべきか (太田秀穂)

新刊

桑木博士の『カントと現代の哲学』を読む (得能文)

(\*公演速記のほか寄稿論文も収録されることとなり「講演」の項目が削除される)

第百八十六輯 (1918年2月10日)

- 新功利主義……………文学士 島本愛之助  
 左右田博士著『経済哲学の諸問題』を読む……………文学博士 桑木徹翼  
 遺伝に就て……………理学博士 山内繁雄  
 神道私見 (完結)……………法学士 柳田国男

泰西思潮

カアル・リイブクネヒトの反軍国主義的信条/昨年中の最良書籍——全米批評家より成る審査会選択の結果/無意識説輓近の趨勢 (Gustave A. Feingold)

雑録

小邦の道徳的意義（桜州生）/見たり聞たり（四）（八田三喜）/学制案略評（大島生）/本会記事

第百八十七輯（1918年3月10日）

全体主義……………鹿子木昌信  
我国体と儒教……………小柳司気太  
国家觀念の發達と国民道徳の改善……………文学博士 中島力造

泰西思潮

フッサアル教授の哲学改革の綱領（アルバート・アアル・チャンドラア）

雑録

「自律と国民道徳との關係」に就きて藤井君に答ふ（吉田熊次）/或人の間に答ふ（島本愛之助）/見たり聞たり（五）（八田三喜）/押川長官の自殺に就て（東片生）/読者の声 柳田君の「神道私見」を読む（河野省三）・速水学士の『批評に答ふ』を讀みて（浴一良）/本会記事

第百八十八輯（1918年4月10日）

民族の優生化と劣生化……………文学博士 松本亦太郎  
学制改革の先きに……………文学士 八田三喜  
国民道徳の基礎……………文学士 補永茂助  
独逸哲学と欧洲大戦乱（十二）……………文学博士 中島力造  
エスタマーク氏の『妻の従属』

泰西思潮

一五一七年～一九一七年 回顧と予想（リチャード、ロバーツ）/米国兵士の宗教/大戦と道徳的浄化

雑録

本会記事/絶対觀と相對觀（蜻洲生）/觀たり聞たり（完）（八田三喜）/偉人の評價（周洋生）/是々非々とは何ぞや（飛魚生）

第百八十九輯 (1918年5月10日)

- 貧の脅迫……………文学士 三輪田元道  
独逸哲学と欧洲大戦乱(十三)……………文学博士 中島力造  
エスターマーク氏の「妻の従属」(完結)  
現代の家の生活……………文学士 吉田静致  
泰西思潮  
トルストイと露西亜のスフィンクス(抄訳)(キルバア・エム・アアバン)  
雑録  
歴史主義に就て(紀平正美)/再び吉田君の説明を煩はす(藤井健治郎)/教授の  
効果を論じて修身教授に及ぶ(入矢裕雲)/本会記事

第百九十輯 (1918年6月10日)

- 独逸哲学と欧洲大戦乱(十四)……………文学博士 中島力造  
国民道德の概念論……………中島徳蔵  
国民道德の概念……………文学博士 吉田熊次  
国民道德……………文学士 紀平正美  
倫理学と国民道德と日本的と……………文学博士 桑木徹翼  
国民道德論に関して……………文学士 大島正徳  
国民道德に就て……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

トロツキの近著『過激派と世界平和』

雑録

- 国民道德に関する私見(隈本有尚)/国民道德に就て(布川孫市)/国民道德は学  
として成立せぬか(島本愛之助)/「我が国民道德」を読む(速水滉)/本会記事

第百九十一輯（1918年7月10日）

- 戦争の婦人に及ぼす影響……………文学士 下田次郎  
国家より人類へ……………文学士 桑田芳蔵  
道徳と芸術……………文学士 瀧村斐男  
「我が国民道徳」につきて批評に答ふ……………文学博士 吉田熊次

泰西思潮

倫理学と国際関係（抄訳）（ジェイムズ・エイッチ・タフツ）/ベンチャミン・キッドの観たる文明の将来——婦人の道徳的優秀に基く社会学的一福音

雑録

再び藤井君に対ふ（吉田熊次）/現代の一大矛盾（大島正徳）/国民道徳の概念（蜻洲生）/戦争と犯罪（桜洲生）/本会記事

第百九十二輯（1918年8月10日）

- 哲学的学科の研究法に就て——哲学古典の翻訳に因みて…文学博士 桑木厳翼  
倫理哲学の可能性……………得能文  
生活の実験哲学……………文学士 紀平正美  
政治倫理上より観たる露西亜……………布川静淵  
吉田紀平二君の説に就て……………中島徳蔵

泰西思潮

独逸の新聞と独逸の輿論（抄訳）（ゴクタア・エス・クラアク）/国際政治は可能なりや（ジェイ・エイ・ホブソン）

雑録

教育の矛盾（八田三喜）/戦後に起る大戦争（牛門生）/熱風冷語（自如観人）

第百九十三輯（1918年9月10日）

- 精神の衛生……………文学士 塚原政次  
家族制度に連関した婦人問題……………麻生正蔵  
社会的正義動搖の兆……………文学士 島本愛之助

ソシウスと国体……………文学博士 遠藤隆吉

泰西思潮

思索の社会的性質（抄訳）（ジェイ・イ・クレイトン）

雑録

出兵の哲学的意義（三輪田元道）/危言一則（匂偈生）/特殊化と個別化（中島君に答ふ）（紀平正美）/暴対暴の争（中島生）/時事偶感（節堂）/騒動の批判（大島）/二等列車（平凡人）

**第百九十四輯（1918年10月10日）**

最近の社会問題の倫理的批判……………文学士 友枝高彦

国民生活の脅威……………高島平三郎

家族制度に連関した婦人問題（完）……………麻生正蔵

教育第一……………文学士 八田三喜

再び国民道徳の概念に就て……………文学士 紀平正美

泰西思潮

国民主義、国際主義、及び超国民主義（抄訳）（マリオツト）

雑録

社会の組織と人心の趨向（越知生）/列車観（紀平正美）/信洲人の印象（野田義夫）/読書余録（一）オツカムの剃刀（桑木巖翼）

**第百九十五輯（1918年11月10日）**

哲学と女性……………文学博士 朝永三十郎

国民道徳補説……………文学博士 吉田熊次

ヴントの新著『国民と其哲学』を読む……………文学士 増田惟茂

泰西思潮

戦時の宗教（抄訳） 附エルズ氏の意見に就て（キリアム・アアネスト・ホッキンク）

雑録

多子者保護（紀平正美）/読書余録（二）リタウエンの哲人（桑木巖翼）/民心の統一とは何か（大島生）/忙中閑語（山形東根）/人心とチャンス（桑田芳蔵）/本会記事

第百九十六輯（1918年12月10日）

仏国三名将と其傑作的戦争……………法学士 五来欣造  
人道と国民道德……………文学士 野田義夫  
ヴントの新著『国民と其哲学』を読む（完）……………文学士 増田惟茂

泰西思潮

民本主義へ（抄訳）（マアガレット・シアアウッド）

雑録

茅原華山氏に答ふ（朝永三十郎）/読書余録（三）再びリタウエンの哲人（桑木巖翼）/時局雑感（B. T.）/本会記事

第百九十七輯（1919年1月10日）

現代の道徳的改造……………文学士 大島正徳  
社会組織の道徳化とは何ぞや……………文学士 速水滉  
官僚論……………高島平三郎  
民族性の研究に就て……………文学士 桑田芳蔵

泰西思潮

宗教的狂熱に依つて支持されて居る過激派/産業に於ける創作衝動の開発/現戦争に含まれたる究極道徳問題

雑録

読書と追憶（一）（桑木巖翼）/世界的流行の感冒と無自覚の教育者（紀平正美）/歳晚八面鋒（小柳司気太）/大戦は吾等に何を教ふるか（深作安文）/国民よ思想問題を忘るる勿れ（三輪田元道）/路上の一些事（宮田脩）/建設的精神の鼓吹（吉田熊次）/妄想情解（栗原英之助）/政友会内閣の心事を疑ふ（大島生）/静

坐余録 (岸本能武太)

第百九十八輯 (1919年2月10日)

故文学博士中島力造先生肖像 (写真)

故中島教授略歴

故中島先生を憶ふ……………文学士 吉田静致  
現代の道徳的改造 (完結)……………文学士 大島正徳  
官僚論 (完結)……………高島平三郎  
大戦に伴ひて生ぜし新国家観……………マスタア・オブ・アアツ 千葉敏蔵

泰西思潮

戦争は防止し得べきや/性的問題の解決に対する新見地

雑録

故中島博士追憶録——世界に誤解せられ易き我国民性 (中島力造) ——読書と追憶 (二) 故中島博士 (桑木厳翼) ——犠牲 (深作安文) ——故中島博士を憶ふ (得能文) ——中島先生の御臨終 (友枝高彦) /曾我惟一君を憶ふ (中島生) /日本現時の中心的问题 (布川孫市) /本会記事

第百九十九輯 (1919年3月10日)

実践哲学上より観たる民主主義……………故文学博士 中島力造  
国際連盟の道徳的基礎……………文学士 友枝高彦  
大戦に伴ひて生ぜし新国家観……………マスタア・オブ・アアツ 千葉敏蔵

泰西思潮

国際連盟の觀念

雑録

人種差別撤廃問題に就て (山形東根) /将さに起るべき社会的新設備 (速水混) /デモクラシーの免疫 (大島生) /本会記事

第二百輯（1919年4月10日）

文化の理想と男女の関係……………宮田脩  
中等学校の修身科に就いて……………文学士 野田義夫  
戦争の詩境……………岡田哲蔵

泰西思潮

自由主義家の眼に映ずる過激派（スタンレー）

雑録

読書と追憶（三）ベルグソンの事（桑木巖翼）/兵士の奴隸的待遇を改善せよ（布川孫市）/国家のコントラスト（深作安文）/人種差別撤廃問題（友枝高彦）/過激派の救治策/本会記事

第二百一輯（1919年5月10日）

文化主義……………文学博士 桑木巖翼  
戦争の詩境（二）……………岡田哲蔵  
中等学校の修身科に就て……………文学士 野田義夫

泰西思潮

政治的サンヂカリズム（マリオット）

雑録

「任用令改正問題」と「教員養成法問題」（大島生）/利他的国家主義（島本愛之助）/本会記事

第二百二輯（1919年6月10日）

新高等学校令に就て……………文学士 八田三喜  
米国留学の見聞……………文学士 深作安文  
個人と職業選定……………辻高衡  
労働問題の倫理的考察……………ドクトル 北沢新次郎  
現代日本文明の価値と其将来……………布川静淵

泰西思潮

国際連盟は実施せらるべきか？（ドレーク）

雑録

時代と教学（蒼天外史）/高校選抜試験規程を疑ふ（大島生）/都会と地方（斗武子）/四宮氏へ（鷲山生）/家族会記事/本会記事

第二百三輯（1919年7月10日）

デモクラシーに対する倫理的考察……………杉森孝次郎  
日本に於ける労働問題……………布川静淵  
二つの危険思想……………文学士 瀧村斐男  
世界文明の帰趨（人文皆兵主義）……………文学博士 遠藤隆吉  
戦後に於ける国民の修養……………中島徳蔵

泰西思潮

教育のデモクラシー的解釈（ダァロック）

雑録

民力涵養（飛魚生）/働くべし（大島）/読者の声 基督教と祖先崇拜（白石三雄）  
/本会記事

第二百四輯（1919年8月10日）

人心不安の原因……………文学士 深作安文  
自然科学の知見と倫理的知見……………文学士 林博太郎  
道徳観に於ける芸術的と論理的……………文学士 紀平正美  
世界観の哲学に就て……………得能文  
自由解放—社会連帯……………文学士 大島正徳

泰西思潮

国際連盟以前に於ける欧洲大勢の一回顧（フレデリック・ポロック）

雑録

温情主義余地あり（AS生）/休暇と学生の社会的奉仕（MO生）/中橋文相の談話

に就て（瀧村生）/偶感漫録（捕風生）/労働問題の帰着点（越知生）

第二百五輯（1919年9月10日）

経済問題と理想問題……………文学博士 桑木敞翼  
女性の種々……………文学士 下田次郎  
国際労働会議と日本……………布川静淵  
資本と労働との争……………中島徳蔵  
戦後の国民道徳に就いて……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

英国産業界に於ける思想の大進歩（アーサー・グリーンウツド）

雑録

院展二科展駈けある記（靄山生）/島原天草の印象一二（山形東根）

第二百六輯（1919年10月10日）

戦後の国民道徳（完結）……………文学博士 井上哲次郎  
五倫五常より社会関係へ……………文学士 大島正徳  
卓越主義……………文学士 三輪田元道  
教育者の見たる朝鮮問題……………文学士 島本愛之助

泰西思潮

労働と国家（J. B. Firth）

雑録

正義人道を行ふに於ける難関（成田衡夫）/魔都市浦潮（AS生）/改造の基礎（捕風生）/本会記事

第二百七輯 (1919年11月10日)

- 米国より見たる日本……………文学博士 松本亦太郎  
批判と威力……………文学博士 吉田静致  
教育者の見たる朝鮮問題……………文学士 島本愛之助

泰西思潮

国際連盟の価値 (ヂャックス) /ブレールスフホード氏の新国際主義

雑録

労働問題を中心に (菅藻生) /労働運動の指導 (速水滉) /エルンスト・ヘッケル  
(友枝高彦) /労働運動と修養 (HF生)

第二百八輯 (1919年12月10日)

- 故中島博士と倫理学研究……………文学博士 桑木徹翼  
露西亜の過激思想と普魯西の軍国主義 (ジヨオン、スパルゴの過激主義論)  
……………文学士 八田三喜  
心理上より見たる家族及結婚制……………文学士 桑田芳蔵

泰西思潮

目下労働界を動転しつつある根本思想/改訂したる欧洲のウイルソン観/戦争と  
基督教

雑録

社会問題と家族的利己心 (大島) /主義及学説の価値 (山形東根) /蔽睨 (微亭生)  
/本会記事

第貳百九輯 (1920年1月10日)

- 経済組織の欠点……………法学博士 渡辺鉄蔵  
高等遊民と労働問題……………文学博士 桑木徹翼  
改造の根本義……………文学士 速水滉  
我が近代史に於ける民衆の発達……………文学士 瀧村斐男

泰西思潮

ナショナル・ギルドとは何ぞや（ジェ・ウイルスン・ハーバー）

雑録

資本家及び労働者に対する社会の生存権（千葉鉦蔵）/大乘とは何ぞや（紀平正美）/思ひ出の記（吉田熊次）/力の一考察（江部淳夫）/愛国心の改造（大島正徳）/教員の待遇問題（野田義夫）/減欲主義と増欲主義（三輪田元道）/陋習の打破（下田次郎）/糞堆頭（栗原英之助）/時論三則（藤井健治郎）/所謂過激派の正体（山形東根）/静坐余瀝——精神統一に就て（岸本能武太）/我国と国際連盟の運動（友枝高彦）/小学教師の殉職（深作安文）

第貳百拾輯（1920年2月10日）

私産に関する道德上の疑義……………文学博士 井上哲次郎  
哲学の品位と研究及宣伝……………文学博士 桑木巖翼  
世界波動の傾向……………岡田哲蔵  
マルクスに現はれたる進化論的思想及其批判……………文学士 島本愛之助  
労資の争闘と協調……………布川静淵  
家庭のデモクラシー化……………中島徳蔵

泰西思潮

米国に於ける社会主義の現状（G. S. Watkins）

雑録

社会改造問答（菅藻生）/森戸事件と帝国大学（SM生）/温情主義について（瀧村生）/或る哲学教師の一日（空寛）/金風録（入矢羽水）/本会記事/読者の声

第二百十一輯（1920年3月10日）

筋肉労働と精神労働……………文学士 塚原政次  
戦後に於ける道德思想の予想と實際……………文学博士 吉田熊次  
米国民の性情……………文学士 深作安文  
人類は退化しつつありや（丘博士の「煩悶の時代」を読む）……………文学士 速水滉

マルクスに現はれたる進化論的思想及其批判 (完結) ……文学士 島本愛之助

泰西思潮

社会全体と経済的集団と (ヂェームス・タフツ)

雑録

高等女学校卒業生に餞す (中島生) / 諫言苦言 (蒼天庵主人) / 「注意人物」 (友枝高彦) / 日本現下の深憂 (大観生) / 本会記事/読者の声

### 第二百十二輯 (1920年4月10日)

日本国民の文化的使命……………文学博士 沢柳政太郎

新時代の性格訓練……………文学士 野田義夫

戦後の欧羅巴……………法学士 五来欣造

独逸新憲法と社会民主国……………布川静淵

所謂学問の自由……………文学士 紀平正美

泰西思潮

レニン主義の一解釈/カウツキーのレニン評

雑録

教育上の平等 (大島正徳) / 外的自由と内的自由 (瀧村生) / 入学試験に伴ふ弊害と其矯正策 (越知生) ”

### 第二百十三輯 (1920年5月10日)

現今の社会問題と日本の将来……………文学博士 井上哲次郎

新独逸と其文化の基調……………辻高衡

庶民的趨勢の為に……………文学士 八田三喜

本邦労働運動の性質と其傾向……………布川静淵

泰西思潮

英国に於ける産業国有化の運動 (アーサー・グリーンウッド)

雑録

禁酒の国泥酔の国 (蜻洲生) / 労働問題と倫理修養運動 (吉田熊次) / 恐慌來の美

物教訓（菅藻生）/安心にして危険（大島正徳）/読者の声

第二百十四輯（1920年6月10日）

改造の徹底	文学博士	吉田静致
社会問題と道徳的改造	文学士	友枝高彦
国民道徳の性質を論じ家族制度の将来に及ぶ	文学士	春山作樹
学者の死活	文学士	江部淳夫
政治的覚醒の必要		中島徳蔵
輿論尊重と少数者	文学士	大島正徳

泰西思潮

現下の人心不安に関する心理学的考察（ジョン・テイ・マッカーデー）

雑録

優越を尋ねて（岡田哲蔵）/社会問題の心理的一面（桑田芳蔵）/外遊日記抄（深作生）/本会記事

第二百十五輯（1920年7月10日）

民衆文化の基調に関する一考察		大山郁夫
特有道徳の意義を論ず	文学博士	藤井健治郎
学者の種々	文学士	下田次郎
不景気の現状及将来		布川静淵
国家の理想	文学士	三輪田元道

泰西思潮

労働問題の一新解決（ヘンリー・ジー・アレン）/ギルド社会主義の批評（アーサー・グレアソン）

雑録

政戦偶感（宮田脩）/社会事業の流行（山形東根）/本会記事/夏期講習一束

第二百十六輯（1920年8月10日）

正義の世紀（非近世者の『近世』の回顧）

……………ドクトル・デア・フィロソヒー 鹿子木昌信  
第三維新の青年国民……………文学士 常盤大定  
炎炎録……………小柳司気太  
日本国民性の一批判……………布川静淵  
「労働」も亦た反省すべし……………中島徳蔵

泰西思潮

急進的煽動者（J. Salwyn Scharpiro）

雑録

消夏漫録（紀平正美）/臨時議会に就て（瀧村生）/群衆心と天体（隈本有尚）/  
近時注目すべき改善論一斑（捕風生）

第二百十七輯（1920年9月10日）

投機と投機市場……………法学博士 河津暹  
時勢と民族的自覚に就いて……………文学士 野田義夫  
世界的となれる排日問題……………布川静淵  
民衆教化の中心に就いて……………高島平三郎  
炎炎録（第二）……………小柳司気太

泰西思潮

青年の抬頭/工場大学/米国の排英感情

雑録

青年の思想（江部淳夫）/国勢調査の倫理的側面（山形東根）/朝鮮の問題（大島  
正徳）/毫碌の心理（希声子）

第二百十八輯（1920年10月10日）

- 時勢と民族的自覚に就て（前号の続き）……………文学士 野田義夫  
過激派の本国にソロヴィオフ在り……………文学博士 吉田静致  
朝鮮の諸問題……………文学士 大島正徳  
社会事業に於ける科学的精神と道徳的信念……………文学士 友枝高彦

泰西思潮

過激派の内幕（ジョン・アレーン・ゲード）

雑録

本会記事/責任觀念の薄弱なる国民（下田次郎）/迷信としての大本教と其流行の心理（速水滉）/ジエムスとロイスの友愛（中島生）/国民道徳の改造——藤井博士の国民道徳論を読み（入矢裕雲）

第二百十九輯（1920年11月10日）

- 軍国主義の心理……………文学博士 姉崎正治  
知と行……………文学士 紀平正美  
創作之日本……………伊藤長七  
自己の経歴中に起りたる道徳上の疑義……………文学士 秦敏之

泰西思潮

デモクラシーの敵たる近世生物学/フロイドの学説の価値

雑録

我国策の将来（島本愛之助）/流行する問題を観て（山形東根）/故ヴェント教授の功績（速水滉）/本会記事

第二百二十輯（1920年12月10日）

- キインズ氏「講和条約の経済的結果」の紹介及批評  
……………マスター、オブ、アアツ 千葉鉞藏  
国民教育即人間教育……………文学博士 西晋一郎  
思想上の岐路……………文学士 深作安文

民衆英雄の詩化……………岡田哲蔵  
生活の様式……………文学士 三輪田元道

泰西思潮

教師団と労働組合との提携是非

雑録

本会記事（二決議）/国民性上の反省（江部淳夫）/労働運動の意義と機会均等主義（捕風生）/蕎麦と饅頭（鳥有叟）/行き詰った時局（山形東根）/故中島教授記念懸賞論文募集

第二百廿一輯（倍大号）（1921年1月10日）

社会改造に関する疑点……………文学博士 井上哲次郎  
論理主義と資本主義……………文学士 紀平正美  
国際的教育の提唱……………伊藤長七  
コントラスト……………鶴城生  
時事数則……………文学士 大島正徳  
資本と労働……………文学士 芝田徹心  
女子教育の思ひ出……………文学士 野田義夫  
家族制度と家族主義の異同……………文学博士 吉田熊次  
我現代社会組織の厳正批判……………ドクトル・オブ・フィロソヒー 植原悦二郎  
生活形式と道徳……………高島平三郎  
新日本の将来……………文学士 島本愛之助  
世界改造と国際連盟……………文学士 友枝高彦  
キインズ氏「講和条約の経済的結果」の紹介及び批評  
……………マスタア・オブ・アアツ 千葉敏蔵  
ヴント倫理学解説……………中島徳蔵

泰西思潮

社会研究に関する新刊英書（ラスキ）

雑録

労資問題の帰着点（深作安文）/鶏鳴録（下田次郎）/模倣と独創（岸本能武太）

/韓獺の塊（栗原英之助）/人か制度か（瀧村斐男）/リアクシヨナリイの価値（豊島参二）/読者の声

第二百廿二輯（1921年2月10日）

文化の絶対性……………文学博士 桑木敏翼  
戦後に於ける欧米の社会状態……………法学士 末松借一郎  
平和、闘争及權威……………文学士 江部淳夫  
ヴント氏倫理学解説（承前）……………中島徳藏

泰西思潮

神秘主義の価値（ゴルドン）

雑録

世界意識の涵養（桑田芳蔵）/少年国（春山作樹）/煩悶時代の日本（山形東根）  
/本会記事/名古屋出張講演記事（友枝高彦）/故中島教授記念懸賞論文募集

第二百廿三輯（1921年3月10日）

魂と物の革命……………ドクトル・デル・フィロソヒー 鹿子木昌信  
農村出身者の求職より観たる社会問題……………布川静淵  
再び昇格問題に就て……………文学士 大島正徳  
戦後に於ける欧米の社会情態（完）……………法学士 末松借一郎  
キインズ氏「講和条約の経済的結果」の紹介及び批評

……………マスタア・オブ・アアツ 千葉敏蔵

泰西思潮

軍備撤廃/今は果して新時代なるか——戦後経営に関する討究/パハイ教

雑録

本会記事/発展的要素に欠けたる我文化（島本愛之助）/菊池謙二郎君の二講演  
（中島徳藏）

第二百廿四輯 (1921年4月10日)

米国司法界に於ける新しき思想……………法学博士 池田寅二郎  
立脚地を定めて……………文学士 芝田徹心  
独逸の新憲法を読む……………文学士 八田三喜  
労働者が天下を得るの道……………中島徳蔵

泰西思潮

教育界の新運動 (スタンウッド・コップ) / タゴールの国際連盟観に対する非難  
/ 煙草は禁止さるべきか / 精神的訓練は虚構の説なるか

雑録

菊池校長問題に関して一言を加ふ (春山作樹) / 米国の新国是と倫理主義 (吉田  
熊次) / 孤寂 (斗武子) / 社会問題としての花柳病 (友枝高彦) / 本会記事

第二百廿五輯 (1921年5月10日)

人格と国家創作……………文学士 深作安文  
文化生活と自然生活……………伊藤長七  
迷信の価値……………文学博士 桑木巖翼  
現代日本の政治道德……………布川静淵  
道德観の官僚性……………文学士 大島正徳

泰西思潮

労農露国視察記 (E. Colombino) / 教授の自由ありや否 (ジョーセフ・ケー・ハー  
ト)

雑録

老年の思想動揺 (春山作樹) / 故フェルスター翁を憶ふ (吉田熊次) / 社会観念に  
関する妄謬 (山形東根) / 社会顛倒の危期 (蜻洲生)

第二百廿六輯（1921年6月10日）

個人主義に関する妄謬……………文学博士 井上哲次郎  
政治の原理……………文学士 紀平正美  
国民の政治観念に就て……………宮田脩  
道徳も亦政争の具か……………文学士 大島正徳  
女子解放か男子拘束か……………文学博士 吉田熊次  
婦人の解放に就いて……………高島平三郎  
両性と社会……………文学士 下田次郎

泰西思潮

シン、フェインの心理（一）/国際平和に伴ふ三大危険/フロイド説の性的要素の偏重

雑録

丁酉倫理会創立廿五周年記念講演会/私学の発展を沮害するものは果して官権か（春山作樹）/奇妙なる防火宣伝（瀧川三軒）

第二百廿七輯（1921年7月1日）

法律と条理……………法学博士 穂積重遠  
『理想主義』と『現代文化』に就いて……………文学博士 姉崎正治  
我国政治道徳の革新……………文学博士 林博太郎  
国家的思想の危機……………文学博士 鹿子木昌信  
個性と社会との関係の考察……………杉森孝次郎  
物化と靈化と……………文学博士 常盤大定

泰西思潮

シン・フェインの心理（二）/過激派の後継者（パウエル・ロールパツハ）

雑録

大本教の検挙に於ける当局の方針に就いての土田杏村君の質問に答ふ（千葉鈺蔵）/スピングレルの西欧文明の凋落（菅野村人）/小フェルスター氏と独逸革命（吉田熊次）/社会事業について（江部淳夫）/不敢為天下先（黙鈴生）/本会記事（\*以降、毎月1日発行）

第二百廿八輯 (1921年8月1日)

トマス・ハーディーの『覇者』……………岡田哲蔵  
 人相に就て……………マスター、オブ、アアツ 岸本能武太  
 学としての哲学史……………文学博士 桑木巖翼  
 社会原理としての機能主義を論ず……………文学士 友枝高彦

泰西思潮

新心理学より観たる英国の教育

雑録

本会記事/精神的二重生活(春山作樹)/現時の風俗と法律と道徳と(桑田芳蔵)  
 /超国家的運動に就いて(蜻洲生)/人口問題の一二(山形東根)/山田憲は如何に  
 よつて救はれたか(一読者)/読者の声

第二百廿九輯 (1921年9月1日)

論説

時事感……………島田三郎  
 トマス・ハーディーの『覇者』(承前)……………岡田哲蔵  
 民力涵養の民本的施設……………文学博士 春山作樹  
 自律的精神と責任観念……………文学士 速水滉  
 将来の社会化時代……………布川静淵

泰西思潮

心理分析の手ほどき (E W)

雑録

故ヴェント教授と独逸文化の将来(速水滉)/「国難来!!」(友枝高彦)/市沢弥一君  
 の死を悼む(中島徳蔵)

(\*「論説」の項目登場)

第二百三十輯（1921年10月1日）

論説

- 現代の合理的国家生活……………文学士 島本愛之助  
労資争議に於ける倫理問題……………文学士 大島正徳  
「感じ」主義……………文学博士 春山作樹  
ヴントの「文化の将来」を読む……………文学博士 桑田芳蔵  
不安なる社会の道德……………文学士 綿貫哲雄  
我国現時の問題に就いて……………高島平三郎

泰西思潮

- 現今欧洲に行はるる革命説を排す（テイ・ヂイ・マサリツク）/芸術の墮落と復興（ヨハンネス・フォルケルト）

雑録

- 政界の醜状と国民の修養（捕風生）/旅宿一夕話（春山作樹）

第二百三十一輯（1921年11月1日）

論説

- 国民道德と国際道德……………文学博士 井上哲次郎  
心理学上より見たる習慣と改造……………文学博士 桑田芳蔵  
国民精神の相互の理解と尊重……………文学士 島本愛之助  
将来の社会化時代（承前）……………布川静淵  
教育費と軍国主義……………文学士 大島正徳

泰西思潮

- 新教育法に依れる実生活術の訓練（テオドル・エム・クナツペン）/ワシントン会議の成功範囲

雑録

- 本会記事/野口氏著「栄子のために」を読む（中島徳蔵）/社会寸評（瀧川三軒）

第二百三十二輯 (1921年12月1日)

論説

- 婦人解放と風俗の頹敗……………文学博士 井上哲次郎  
 原首相の暗殺に対する倫理的批判……………文学士 友枝高彦  
 天才教育か人才教育か (附、野村隈畔の死)  
 ……………マスター、オブアアツ 岸本能武太  
 マルクス主義の一瞥……………文学博士 深作安文  
 原首相の凶変と日本の政治心理……………布川静淵

泰西思潮

- 新露西亜に於ける結婚及び母性保護 (ハンス・ニエデルメール)

雑録

- 原首相暗殺事件の教訓 (吉田熊次) / 文検修身科試験に就て (友枝高彦) / 一切衝  
 動皆満足——春山博士の「感じ主義」を讀みて (千葉命吉) / 白蓮夫人の事 (瀧  
 村生) / 故安田翁に就きて (鶏声窟主人) / 読者の声 / 本会記事

第二百三十三輯 (1922年1月1日)

論説

- 批評の批評……………文学博士 桑木巖翼  
 男尊女卑と女尊男卑……………文学士 野田義夫  
 スペングレルの先駆者 (Flinders Petrie の文明転変説を讀む)  
 ……………マスター、オブ、アアツ 千葉鉞藏  
 米国を中心に……………布川静淵  
 国際道徳の基準を論ず……………文学博士 吉田熊次  
 平和への道……………文学士 深作安文  
 ベルトランド・ラッセルの支那国民観

泰西思潮

- 主権問題の諸様相 (B. M. Laing) / 産児制限 (アーサー・グレアソン)

雑録

- 時代思潮の根底をなすもの (紀平正美) / 仮想敵の心理 (大島正徳) / 平和問題と

華盛頓会議の哲理（江部淳夫）/闇殺行為の戯曲的方面（宮田脩）/芸術的行為（岡田哲蔵）/槐安国語（栗原英之助）/戦争か平和か（桑田芳蔵）/時事短評（三軒生）/十年より十一年へ（蜻洲生）/本会記事

第二百三十四輯（1922年2月1日）

論説

カント以前の道徳的感情論……………文学士 島本愛之助  
綱紀問題と政党事情……………隈本有尚  
愛の醇化……………文学博士 下田次郎  
誤られ易き全我と自由と創造……………文学博士 春山作樹  
東西文明の調和とは何ぞや……………布川静淵  
時代相雑感……………文学士 大島正徳  
近江聖人の聖人たる所以……………中島徳蔵

泰西思潮

国家に対する攻撃論（ノルマン・ワイルド）

雑録

時事小観（山形東根）/読者の声 形骸の中学教育（鶴藤幾太）・結婚問題私観（柿崎純）

第二百三十五輯（1922年3月1日）

論説

将来の国家……………文学士 藤井健治郎  
スピングレルの先駆者（Flinders Petrieの文明転変説を読む）  
……………マスターオブアーツ 千葉鈺蔵  
悪と罪との不調和……………文学士 寺田精一  
カント以前の道徳的感情論……………文学士 島本愛之助  
農村社会問題……………布川静淵  
高等普通教育の改革と府県の義務経営……………文学士 八田三喜

泰西思潮

インドのグアンデイ運動とは何ぞ/何故に平和思想は実現し難き乎

雑録

現実的行動と理想的行動(桑田芳蔵)/軍備縮小の思想的影響(瀧川三軒)/本会  
記事

第二百三十六輯(1922年4月1日)

論説

自由か平等か友愛か……………文学博士 吉田熊次  
リッケルトの『哲学体系』を読む……………文学博士 桑木巖翼  
インターナショナルイズムの教育方面……………文学士 江部淳夫  
誤られ易き「全我」と「自律」と「創造」……………文学博士 春山作樹  
カント以前の道徳的感情論……………文学士 島本愛之助  
日本国民性の長所短所について……………文学士 坂井衡平

泰西思潮

我が産業組織の一救済策

雑録

産児制限の研究に就て(或人の問に答ふ)(布川静淵)/「我」即一切衝動連帯(千葉命吉)

第二百三十七輯(1922年5月1日)

論説

綱紀問題に就いて……………湯原元一  
我邦教育の革新……………文学博士 林博太郎  
リッケルトの『哲学体系』を読む(承前)……………文学博士 桑木巖翼  
将来の国家……………文学博士 藤井健治郎

泰西思潮

デモクラシーとボルシエキスム共産主義、サンデイカリズム、及び国家社会主義

の得失（ダブリュー・アール・イング）

雑録

本会記事/傑士ガンヂ（Srinivasa Sastri）/ガンヂの聖訓

第二百三十八輯（1922年6月1日）

論説

普通教育年限の延長と学制の刷新……………島田三郎  
政治と道徳……………文学士 友枝高彦  
支那国民性瞥見……………文学博士 常盤大定  
文化生活の標準……………布川静淵  
法の機能と道徳の機能……………文学士 島本愛之助

泰西思潮

英国に於ける大地主の凋落（Harold Cox）

雑録

独創主義の立場から（春山博士の「全我」「自律」「創造」論を評す）（千葉命吉）  
/支那人の道徳/のらくら大学生/本会記事

第二百三十九輯（1922年7月1日）

論説

カントの末日……………岡田哲蔵  
教育性の乏しき我国の社会……………文学士 倉橋惣蔵  
感情の陶冶……………文学博士 春山作樹  
リツケルト『哲学体系』を読む（承前）……………文学博士 桑木巖翼  
新付民族に対する内地人の心理変化を望む……………文学士 太田秀穂

泰西思潮

外国哲学者の日本人評（Hermann Keyserling）/現代人の寂寞感/文明社会に於ける野蛮性の生物学的必然性

雑録

某大学教授の不品行と其幹部の道德意識（中島徳蔵）/政治家の型（瀧村斐男）  
/無法無責任なりとして非難せらるる現代人/本会記事

第二百四十輯（1922年8月1日）

論説

支那現代の思想界について……………文学博士 小柳司気太  
ラーテナウの社会理想を論ず……………文学士 友枝高彦  
靄溪遺響を読む……………文学博士 深作安文  
社会を自己の中に……………文学士 大島正徳  
実業家の見たる本邦教育の欠陥に就て……………文学博士 速水滉

泰西思潮

最新式のアメリカ娘スタレー・ホール (G. Stanly Hall)

雑録

本会記事/世相一瞥録（山形東根）/反ボルシェビキ・レーニン/フロイド学に  
関する諸近刊/貸銀と其決定に於ける諸研究/ドイツに於ける新貧民及び其救  
助策

第二百四十一輯（1922年9月1日）

論説

現代と老子の柔の教……………文学博士 西晋一郎  
犯罪の残忍的傾向……………文学士 寺田精一  
靄溪遺響を読む（承前）……………文学博士 深作安文  
東京から大阪へ……………文学士 野田義夫  
政治道德論者としてのホツプスとミル……………文学博士 吉田熊次  
貞操の社会的考察……………布川静淵

泰西思潮

最近独逸文芸/国家に関する一新説（シヨー・デスモンド）

雑録

フランスに於ける労働運動の分裂 (Ida Treat O' Nell) /社会事業当局者必読書

第二百四十二輯（1922年10月1日）

論説

運動競技と国民性……………文学博士 下田次郎  
生存から生活へ……………宮田脩  
中等教育と漢文……………文学博士 小柳司気太  
ミステイズムと現象学的考察……………文学士 坂井衡平  
我観文化……………高島平三郎  
生活問題を中心に……………布川静淵

泰西思潮

新時代の青年間に於ける幻滅の快樂主義 (Rayna Raphaelson)

雑録

寺田静一君を弔す (速水滉) /輿論とデモクラシー/読者の声 教育の核心 (鶴藤幾太)

第二百四十三輯（1922年11月1日）

論説

法律の社会化としての具体的妥当性……………法学博士 牧野英一  
平等党を立てよ (新政党に望む) ……法学士 五来素川  
独逸の統一学校問題と我国の教育問題……………文学士 八田三喜  
漢学漢文問題と思想生活……………文学士 大島正徳  
革命心理の一考察 (宣伝用小冊子の心理) ……パウル・プラウト博士 (Dr. Paul Plaut)  
私の先生 (吉田翁評伝) ……中島徳藏  
新教育の理想と方法……………文学士 入沢宗寿

泰西思潮

教育上の一脅威としての「亜米利加主義」 (F. B. Kage) /改造途上の英国社会情

態 (Élie Halévy)

雑録

民族の同化 (桑田芳蔵) / 蒙古喇嘛教に対する未発表の真相探究 一

第二百四十四輯 (1922年12月1日)

論説

理性主義反対の一叫聲——Miguel de Unamuno……………文学博士 桑木厳翼

欧米に於ける最近民心の趣向……………文学博士 吉田静致

社会意識の拡大……………文学士 綿貫哲雄

法律の社会化としての具体的妥当性……………法学博士 牧野英一

泰西思潮

戦争の防止と其根本的原因 (Philipp Kerr) / 産業経営上の倫理的原則案/事業経営に関するフホードの意気

雑録

当面の事象に接して (山形東根) / 修養団の活動/国体と神社との関係/高等学校高等科哲学科試験/本会記事

第二百四十五輯 (1923年1月1日)

論説

欧米に於ける女性の智的発展……………文学博士 井上哲次郎

真宗の運命観及び其の道德観……………文学博士 村上専精

仏教の仏陀と基督教の神……………文学士 島地大等

私生子の法律問題……………法学博士 穂積重遠

輿論と伝承……………文学博士 深作安文

社会進行上の相対性……………布川静淵

ルイ・パストール (彼れの事業と精神) ……………文学博士 姉崎正治

歴史と科学とは果して別種の知識なるか——英国哲学者の討論に就て

……………文学博士 桑木厳翼

泰西思潮

共産主義者と農業（ロシアに於ける農業改造）（Lois Levine）

雑録

頭の中の控帳より（千葉掬香）/学制頒布当時の倫理思想（吉田熊次）

第二百四十六輯（1923年2月1日）

論説

現在の基督教観……………岡田哲蔵  
行の哲学について……………文学博士 紀平正美  
私生子の法律問題（承前）……………法学博士 穂積重遠  
静坐と坐禅……………マスター・ラブ・アーツ 岸本能武太  
自分のためと他人のため……………文学士 大島正徳  
宿曜経の科学的基礎（上）……………隈本有尚  
修身教授の破産……………文学士 三輪田元道

泰西思潮

歴史家の予想（Konrad Falke）/共に語るに足らぬアメリカ人（Augustin Hamon）

雑録

青年の煩悶と指導者の態度（栗原英之助）/行政整理、綱紀振粛と官吏道德の改善（太田秀穂）/本会記事

第二百四十七号（1923年3月1日）

論説

力としての倫理……………文学博士 藤井健治郎  
老子の哲学と現代文化……………文学博士 井上哲次郎  
新文化と新政治……………布川静淵  
宿曜経の科学的基礎（下）……………隈本有尚  
戦後に生るべき欧米の文化……………伊藤長七

泰西思潮

共産主義者と農業（改造途上のロシア農業）（Lois Levine）

雑録

英国人の意気に鑑みよ（捕風生）/宗教的信仰と国民的義務（中島生）/本会記事  
（\*巻数の助数詞が「輯」から「号」に変更）

第二百四十八号（1923年4月1日）

論説

自由に就いて……………文学博士 深作安文  
老子の哲学と現代文化（完）……………文学博士 井上哲次郎  
人格の目覚め……………高島平三郎  
職業教育に対する誤解……………文学博士 春山作樹  
日蓮宗の教義（未完）……………田辺善知

泰西思潮

赤裸々なる日米関係（太平洋問題の将来）（J. O. P. Bland）/欧羅巴の将来諸家観

雑録

水平社の社会運動（山形東根）/民衆自覚決起の時（捕風生）/東へ東へ（伊藤長七）

第二百四十九号（1923年5月1日）

論説

欧米の社会事業……………法学士 富田愛次郎  
真宗の如来観……………文学博士 常盤大定  
水平社運動に関する一考察……………山形東根  
日蓮宗の教義及其研究法（未完）……………田辺善知

泰西思潮

宗教哲学に於ける現代の諸傾向（F. A. Hoernlé）/欧洲の将来諸家観

雑録

環境の改造か、人間の改造か、（三田生）/水平社運動の目的と効果（中島生）/  
本会記事

第二百五拾号（1923年6月1日）

論説

創造的進化と価値の世界……………ドクトル・オブ・フィロソヒー 帆足理一郎  
倫理運動の起源と其の発達……………文学士 友枝高彦  
自治道徳に就て……………文学士 大島正徳  
学校教育過信の弊……………布川静淵  
日蓮宗の教義及其研究法（完結）……………田辺善知

泰西思潮

悪と新心理学フロイド学の長所短所（Arthur Clutton-Brock）/泰西思潮欄前号  
「宗教哲学に於ける現代の諸傾向」の正誤表

雑録

学校閥と社会問題（M0生）/農業の権威（中島生）/変化し行く米国の結婚観/  
スチュアート・シャーマン教授の解釈した亜米利加的信念/本会記事

第二百五拾巻輯（1923年7月1日）

論説

聖親鸞の妻帯問題……………文学博士 村上専精  
神道と国民道徳……………文学博士 田中義能  
ポーサンケーの宗教観……………岡田哲蔵  
スペングラー氏の教育論を評す……………文学博士 林博太郎  
国民軍事教育に就て……………布川静淵

泰西思潮

社会主義と科学（H. G. Wells）/欧羅巴及び亜細亞に於ける人口難（Albin Michel,  
Karl Brockhausen）/トロツキー自伝略

雑録

虚偽の力 (流川生) / 『欧洲戦後の社会運動』を読む (静淵生) / フランス民族は  
自殺しつつある? / 米国の公立学校は新状態に応ずるために改造さるべきか / 本  
会記事 / 夏季講習会

(\*巻数の助数詞が「号」から「輯」に変更)

第二百五拾二輯 (1923年8月1日)

論説

婦人問題の種々相を論じて恋愛神聖主義に及ぶ……………文学博士 井上哲次郎  
遺書に現はれたる情死者の心理……………山形東根  
倫理運動の起源と其の発達……………文学士 友枝高彦  
ポーサンケーの宗教観 (完結)……………岡田哲蔵  
拙著支那仏教史蹟の批評につきて……………文学博士 常盤大定  
ウエツプ夫妻の「資本主義文明の衰滅」の大意……………中島徳蔵

泰西思潮

軍縮は平和を将来するか (Howard Little) / 「資本主義の衰滅」諸批評

雑録

有島武郎氏の態度に就て (AS 生) / 東洋大学紛擾事件の真相 / 読者の声 生の欲  
求か死の満足か (瘦猿生) / 本会記事

第二百五拾三号 (1923年10月1日)

論説

ジェーン・アダムス女史の社会植民事業……………文学士 友枝高彦  
恋愛情死に関する悪時代思潮を排す……………文学博士 井上哲次郎  
芸術と道徳……………文学士 栗原英之助  
社会人心の破綻……………文学博士 桑田芳蔵  
ウエツプ夫妻の「資本主義文明の衰滅」の大意 (承前)……………中島徳蔵

泰西思潮

欧洲の将来（隷属か自滅か）（バートランド・ラッセル）/ 次の次の戦争/ ウエールの理想国/ 自殺の新原因

雑録

白々しい文士連の口前（捕風生）/ 日本の世界一（山形東根）/ 読者の声 震肉を抛擲する者（瘦猿生）

（\*巻数の助数詞が「号」に変更。9月は関東大震災により発行元の大日本図書が類焼した影響で刊行されず）

第二百五拾四号（帝都復興号）（1923年12月1日）

宣言

論説

震災と人生観	文学博士	井上哲次郎
知識階級の復興	文学博士	桑木厳翼
生命の喜より発足して	文学博士	常盤大定
復興の第一義		高島平三郎
文化本位主義の帝都復興策		麻生正蔵
震災と霊的革命	ドクトル、オブ、フィロソフィ	帆足理一郎
国難に面して	文学博士	下田次郎
大震災と文化生活	文学博士	林博太郎
精神的復興策	文学士	島本愛之助
深刻に自己へ還らしめられて	文学博士	紀平正美
震後問題の内面批評	文学士	大島正徳
精神的復興の原理		佐野勝也
此際に「此際」の一語を葬れ	文学博士	春山作樹
震災生活の倫理的考察	文学博士	吉田熊次
鮮人騒動と国際的精神	文学士	友枝高彦
罹災者の慰安	文学博士	深作安文
震災の社会的観察		布川静淵

震災雑感——三則……………マスター、オブ、アーツ 岸本能武太  
 大震小言……………文学博士 小柳司気太  
 己れの弱点を見せつけられた……………文学博士 吉田静致  
 復興と国民の意気……………文学士 塚原政次  
 創建即復興……………伊藤長七  
 大災と心理……………文学博士 桑田芳蔵  
 将来の国都の為に地を相す……………岡田哲蔵  
 大東京風の新興……………中島徳蔵  
 震災に現はれた国民教育上の欠陥……………文学博士 速水滉  
 天恵と文化……………文学士 三輪田元道

第二百五拾五号（1924年1月1日）

論説

産業組合中央金庫に就て……………文学博士 矢作栄蔵  
 国民よ共に起たう……………文学博士 藤井健治郎  
 公娼制度廃止に賛成する理由……………安部磯雄  
 震災に遭て……………辻高衡  
 普通選挙の実施と政治教育……………布川静淵  
 群衆の一瞥……………文学博士 深作安文  
 ウエツプ夫妻の「資本主義文明の衰滅」……………中島徳蔵

泰西思潮

比例代表制の必要 (Paul H. Douglas)

雑録

専門家の意見の価値 (吉田熊次) / 知識階級迫害の一例 (桑木巖翼) / 智徳の並進  
 (紀平正美) / 富豪と社会奉仕 (栗原英之助) / 大阪から見た関東の大震大火 (野  
 田義夫) / 本会記事

第二百五拾六号（1924年2月1日）

論説

- 普通選挙の準備としての人格教育の必要を論ず……………文学士 島本愛之助  
大震災と感謝的生活……………マスター・オブ・アーツ 岸本能武太  
詩人イエーツの思想……………岡田哲蔵  
「運」といふこと……………文学士 大島正徳  
思想善導に必要な教育病理的考察……………文学博士 春山作樹  
神代巻と我國民性（上）……………文学士 坂井衡平

泰西思潮

比例代表制の必要（完結）（パウル・エツチ・ドグラス）

雑録

保険金は国家が払ふべきだ（五来素川）/軽浮なる役人生活（山形生）

第二百五十七輯（1924年3月1日）

論説

- 少年の犯罪に就て……………山森平成  
カントの宗教論……………文学士 佐野勝也  
倫理運動の起源とその発達……………文学士 友枝高彦  
思想の悪化と暴力是認の傾向……………文学博士 速水滉  
神代巻と我國民性（中）……………文学士 坂井衡平  
階級闘争問題……………山形東根

泰西思潮

理想主義と現実（戦争か平和か）（バークンヘツド）/幼年の精神上及び道徳上に及ぼす活動写真の影響（Joseph Roy Geiger）

雑録

農家の前途如何（太田秀穂）/境涯と修養（栗原英之助）/読者の声 文検修身科に哲学問題を加へよ（稲毛祖風）/本会記事

（\*表紙に「三月号」の表記あり。以下、表紙に発行月の号数が記載されるようになる。巻数の助数詞が「輯」に変更）

第二百五十八輯（1924年4月1日）

論説

- ロツチエに於ける妥当性の実有態……………北吟吉  
 パピニの『キリスト伝』を評す……………ゲイリー  
 パピニの著に対するゲイリー氏の評論に就て……………岡田哲蔵  
 大自然に屈せざる力……………文学博士 深作安文  
 民心作興に関する詔書に就きて（上）……………高島平三郎  
 世界に於ける日本の地位と其危機……………布川静淵  
 マルキシズムの科学的価値……………五来素川

泰西思潮

英国新聞経営に関する一記者の意見（J. St. Loe Strachey）/ロシアの現状  
（Aylmer Maude）

雑録

国民精神の作興と思想の善導（瀧川生）/人間愛護（太田秀穂）/本会記事

第二百五十九輯（1924年5月1日）

論説

- 永久平和の使徒としてのカントを憶ふ……………文学士 友枝高彦  
 直観の公理……………文学士 佐竹哲雄  
 最近の猶太人問題……………若宮卯之助  
 パピニと其人物評論……………岡田哲蔵  
 神代巻と我国民性（下）……………文学士 坂井衡平

泰西思潮

ドイツに於ける宗教生活の現状と其の主なる諸傾向（ハインリヒ・ヴァイネル）

雑録

道徳の権威（栗原英之助）/青年倫理運動の急務（山形東根）/本会記事

第二百六十輯（1924年6月1日）

本会の新計画広告

論説

- 無意識活動の倫理的価値……………文学博士 吉田熊次  
青年の意義……………文学博士 下田次郎  
排日移民の社会的考察……………山形東根  
最近の猶太人問題（下）……………若宮卯之助  
パピニと其の人物評論（承前）……………岡田哲蔵

泰西思潮

デモクラシーの退潮（H. H. Powers）

雑録

国民より見たる総選挙の意義（捕風生）/無題録（山下徹）/本会記事

（\*「本会の新計画広告」は公募論文・懸賞論文の案内）

第二百六十一輯（1924年7月1日）

本会の新計画広告

論説

- 人種問題と永久平和……………文学博士 井上哲次郎  
知と行……………文学博士 紀平正美  
日蓮教学の原理……………本多日生  
ミュラ・フライエンフェルスの『人格と世界観』——特にカントの性格と学説と  
の関係に就て……………文学博士 桑木徹翼

泰西思潮

社会主義、共産主義、及び無政府主義、の概念本質及び種類

雑録

精神の米国化よりの独立（紀平正美）/リンカーンの国北米合衆国の国家的矛盾  
（深作安文）/日米問題の一考察（不染生）/小題小言（小言子）/時に関する改  
善事項/本会記事

第二百六十二輯（対米研究号）（1924年8月1日）

社告

論説

日米問題所感……………布川静淵  
 国民心理と国際倫理……………文学士 友枝高彦  
 法律の範囲外……………文学士 三輪田元道  
 日米問題の倫理的批判……………文学博士 吉田熊次  
 深く自らを培へ……………文学士 大島正徳  
 道徳上から観たる日米問題……………文学博士 井上哲次郎  
 米国の排日法案と我が国民の覚悟……………高島平三郎  
 米国人は果して墮落したか……………マスター・オブ・アーツ 岸本能武太  
 対米観の諸相……………岡田哲蔵  
 米国独立の大業に鑑みよ……………宮田脩  
 須らく平等主義提唱の第一人者たるべし……………文学博士 常盤大定  
 国際的正義……………文学博士 春山作樹  
 学童問題時代の排日運動の回顧……………文学士 島本愛之助  
 日本人反省の秋……………法学士 五来素川  
 容れられざる者の誇……………文学博士 吉田静致  
 国際主義と米国……………文学博士 深作安文  
 日米問題の根本的解決……………麻生正蔵

泰西思潮

「排日所感」/ネーション誌の「国民的礼儀」/サーヴエー誌の「親亜政策逆転の可能」(Galen M. Fisher) /亜細亜人排斥に関する濠洲の前首相ヒューズの見解

雑録

真理(紀平正美) /日米問題の側面観(隈本有尚) /本会記事

第二百六十三輯（1924年9月1日）

論説

- 家系尊重の傾向に就て……………文学士 戸田貞三  
教育上の国際主義と国家主義……………文学博士 春山作樹  
現今教育上の最重要問題……………文学博士 塚原政次  
カントの道德論に於ける「自由」に就いて……………高柳伊三郎

泰西思潮

ドイツのクー・クラックス・クラン (Heinz Pollack) / 国際主義論 (Christian L. Lange) / 産業上の貴族主義と民主主義 (Oswald Spengler) / 一ボルシエビストの対思想態度 (Nadezhda Krupskaja)

雑録

- ノオドイツ優越 (静観子) / 法大氏時代の日本 (不染生) / 小題小言 (小言子)  
/ 旅窓小観 (布川静淵)

第二百六十四輯（1924年10月1日）

論説

- 批評之進化……………文学博士 紀平正美  
仏教道德につきて……………文学博士 常盤大定  
第廿世紀初頭の哲学……………文学士 島本愛之助  
農村振興問題 (都会の農村化、農村の都会化の唱道) ……………布川静淵  
人種感情か人類感情か……………文学博士 桑田芳蔵

泰西思潮

新教育諸案 (Agnes de Lima)

雑録

- 邦人性格の一面に対する外人観 (岡田哲蔵) / 「もし労働党が政権をとるならば」  
(友枝高彦) / 読者の声 自治と政治と道德 (堀尾重敏 (浩久)) / 本会記事

第二百六十五輯 (1924年11月1日)

論説

- ウエルズの無有郷……………岡田哲蔵
- 旅行雑感……………文学博士 紀平正美
- 法華部大観(上)……………本多日生
- 哲人……………文学士 栗原英之助
- 第廿世紀初頭の哲学(完結)……………文学士 島本愛之助
- 精神作興の良法如何(選賞論文)……………水野治

泰西思潮

帝国主義たる亜米利加 (Samuel Guy Inman)

雑録

喰物にするな(大島正徳) / 教員組合啓明会の為めに弁ず(春山作樹) / 小題小言  
(小言子) / 本会記事

第二百六十六輯 (1924年12月1日)

論説

- 物心一如と教化の原理……………文学博士 林博太郎
- 東洋思想の片鱗……………文学博士 小柳司気太
- 日本人の切開くべき血路……………中島徳蔵
- 法華部大観(承前)……………本多日生

選賞論文

- 精神作興の良法如何……………河上民祐
- 精神作興の良法如何……………山添恒治郎
- 精神作興の良法如何……………西村虎之助

泰西思潮

独逸革命と労働者教育 (Boris Stern)

雑録

軍事教育案には反対(山形東根) / 文明の取捨選択(瀧川生) / 本会記事  
(\*「選賞論文」の項目登場)

第二百六十七輯（1925年1月1日）

論説

- 歴史主義に就て……………文学博士 桑木漱翼  
自然と人間……………文学博士 桑田芳蔵  
国民道徳と国際道徳……………文学博士 井上哲次郎  
東洋思想の片鱗（其二）……………文学博士 小柳司気太

泰西思潮

現代の性愛と現代の文芸（J. W. Krutch）/世界の覇者たる使命を担ふ亜米利加

雑録

社会良心に就て（深作安文）/所謂軍事教育に就て（紀平正美）/道徳は無力か有力か（吉田熊次）/宗教脱体（栗原英之助）/人生樂觀の発見（布川静淵）/愚仏庵日記の中から（藤井健治郎）/本会記事

第二百六十八輯（1925年2月1日）

論説

- ヨーロッパの反動運動……………法学士 藤井悌  
青少年訓練に就て……………陸軍少佐 今村均  
ヘーゲルの宗教論及び宗教と国家との関係論（一）……………文学博士 紀平正美  
法華部大観（下）……………本多日生  
ルーテルの思想とその革命的時代……………文学士 朝日融溪

泰西思潮

新教育諸案（Agnes de Lima）/人としてのレーニン（Maxim Gorki）

雑録

現代青年に対する感想（岡野義三郎）/本邦最近の学風（特に哲学の流行に就て）（山形東根）/本会記事

第二百六十九輯（1925年3月1日）

論説

- 入学難と国民的猟官運動と学校闘……………文学士 大島正徳  
怪行者の跋扈する社会……………山形東根  
瑜伽教学と倫理政策……………隈本有尚  
ラスキンの社会哲学考察……………今井三郎  
ヘーゲルの国家と宗教との関係論（二）……………文学博士 紀平正美

泰西思潮

ロシアに於ける非宗教主義の勝利（Stanley High）

雑録

文明の均衡（静観子）/露国に対する正しき見方（瀧川生）/本会記事

第二百七十輯（1925年4月1日）

論説

- 国難に直面して……………高島平三郎  
ヨーロッパの反動運動（二）……………法学士 藤井悌  
瑜祇の修煉とその結果（一）……………隈本有尚  
国情改善の素因としての国民性……………文学士 坂井衡平

泰西思潮

現代アメリカを風靡する諸種の思想（Charles Franklin Thwing）

雑録

丁西倫理会の面目/日本に於ける淘汰作用（静淵生）/四半世紀の推移の後（静観子）/時事小観（小観子）/本会記事

第二百七十一輯（1925年5月1日）

論説

- 公民教育に就て……………文学博士 紀平正美  
国体悪個人弱……………文学士 大島正徳  
本邦社会事業概観……………布川静淵  
瑜祇の修練とその結果（二）……………隈本有尚  
人格国の建設……………文学博士 深作安文

泰西思潮

- 後退しつつある欧洲（Georg Brandes）/近代欧洲人氣質（瀧川生）/喇嘛教（逍遙と瞑想との宗教）

雑録

- 日本人の二重生活（静淵生）/時事小観（小観子）/本会記事

第二百七十二輯（1925年6月1日）

論説

- 日本の行詰は自然（其打破の実行方法）……………農学士 志賀重昂  
行動の体系と道德の体系……………長谷川万次郎  
エマーソンの思想を論ず……………文学博士 吉田熊次  
社会といふ概念及其適用……………布川静淵  
女学振興の急務……………宮田脩  
人格国の建設（承前）……………文学博士 深作安文

泰西思潮

- 英国及び米国に於ける『社会主義』/新マルサス主義者/来るべき世界の秩序（ヘルマン・カイザリング）

雑録

- 更始一新の機（山形東根）/政治に対する教育家の諒解（清陰生）/僧侶の選挙権獲得（捕風生）/時事小観（小観子）/本会記事

第二百七十三輯 (1925年7月1日)

論説

- 列強の民性……………文学士 小尾範治  
政治と道德……………文学士 友枝高彦  
僧朗と羅什——「支那仏教史蹟」の後に……………文学博士 常盤大定  
知識階級の心的鍛錬……………文学士 栗原英之助  
聾者としての予の経験……………マスタア・オブ・アアツ 岸本能武太  
民心帰向のバロメーター……………山形東根

泰西思潮

近世の進化論 (エル・エツチ)

雑録

勤儉奨励の「統計図表集」(日本の国勢大観) / 実業教育の振興 (瀧川生) / 学生界の道德観 (清陰子) / 時事小観 (小観子) / 本会記事

第二百七十四輯 (1925年8月1日)

論説

- 現実界の構造と悪……………文学博士 西晋一郎  
仏教の同胞思想に就て……………文学士 島地大等  
教師職業論……………立仙藤松  
政治と医術……………文学士 坂井衡平

泰西思潮

共産主義者の一主張 (R. P. Dutt)

雑録

差別善説を評す (中島徳蔵) / 巴里だより (島本愛之助) / 昨の法学、今の哲学 (観潮子) / 思想を観る用意 (静淵) / 時事小観 (小観子) / 本会記事 / 国民歌懸賞募集 / 捕風生の僧侶の選挙権獲得論に抵抗す (鈴木貫道)

第二百七十五輯（1925年9月1日）

論説

- カント哲学と共産主義の理論——Schlund, Die philosophischen Probleme des Kommunismus vornehmlich bei Kant. ……文学博士 桑木巖翼  
産児制限の問題に就て……………文学博士 井上哲次郎  
成人教育に対する希望……………文学博士 春山作樹  
シペングラの「西欧文化没落」の思想を評す……………文学士 下沢瑞世  
健全なるバツク作成の必要と義務……………中島徳蔵

泰西思潮

- 人種の自尊と人種の偏見（ハーバート・アドルフ・ミラー）/ロシアは資本主義に復帰するか（ハーリー・エフ・ウオード）

雑録

- 青年期国民の特色（清陰子）/国産品愛用の道徳（山形生）/政治の倫理的批判（瀧川生）/神社及寺院の社会化（不染生）/広東学生の宣言/山中銷夏録（山中人）/時事小観（小観子）

第二百七十六輯（1925年10月1日）

論説

- 道徳的自我の背景……………文学士 綿貫哲雄  
支那の国民性と日本の其れ……………文学士 後藤朝太郎  
事実の学……………文学士 市野沢寅雄  
特殊文明国の悲哀……………山形東根  
我が国民性に就いて……………文学士 大島正徳

泰西思潮

- 戦争不法視の宣布/アメリカに於ける犯罪率の増加

雑録

- 浪費の悲劇（清陰子）/都会生活の価値幾何ぞ（布川生）/時事小観（小観子）

第二百七十七輯 (1925 年 11 月 1 日)

論説

- 支那の印象……………文学博士 下田次郎  
 人格上の関係と仕事上の関係……………文学博士 紀平正美  
 社会問題発生の楔機と原因……………文学博士 吉田熊次  
 倫理的態度の個体発生に就いて……………関寛之

泰西思潮

最近の英国文学に現はれた神の思想 (Horace Thorogood) / 匝米利加の学童

雑録

村落生活の変化と改造 (東根) / 普選と自治制 (不染子) / 或問或答 (瀧川生) / 読者の声

第二百七十八輯 (1925 年 12 月 1 日)

論説

- 文化と迷信……………文学博士 桑田芳蔵  
 作業能率と人間力の研究……………医学博士 高橋孝太郎  
 文化教育学の特徴とその意義……………文学士 入沢宗寿  
 公民教育概論……………法学士 木村正義  
 統教師職業論——教師の職業的性質を闡明して新教師観の確立に及ぶ  
 ……………立仙藤松

泰西思潮

反抗中にある婦人 (心理的一研究) (Meyrick Booth)

雑録

学界の新傾向 (山形生) / 過去一年を回顧して (不染子) / 本会記事

第二百七十九輯（1926年1月1日）

論説

- 社会心と社会人……………文学博士 深作安文  
成人教育と人生の向上……………文学博士 林博太郎  
欧米を觀て……………岡田哲蔵  
社会教育機関としての図書館（予の觀たる米国図書館）…文学博士 藤井健治郎

雑録

- 空虚無内容なる主義を排す（紀平正美）/天真爛漫の説（栗原英之助）/信念涵養  
に関する一考察（岸本能武太）/大勢の趨向と一人の力（岡野義三郎）/社会思想  
体系の一瞥（布川静淵）

泰西思潮

- 文明は如何にして没落するか（デアン・イング）

第二百八十輯（1926年2月1日）

論説

- 露国の現状と教育……………文学士 八杉貞利  
芸術の形式と内容……………宮森麻太郎  
不良少年の発生及救済策……………文学士 太田秀穂  
成人教育と人生の向上（承前）……………文学博士 林博太郎  
国家に於ける顕幽の理……………文学士 坂井衡平  
猶太民族の性格に就て……………山形東根

泰西思潮

- 欧洲の生活の優越（ロバート・モワツト）

雑録

- 下火となれるマルキシズム（瀧川三軒）/岐路に立つ青年学生のために（不染子）  
/文壇ゴシツブ（春の人）/読者の声 迷信打破に就て（楠本義郎）